

海外研修視察報告書

平成28年11月28日

長崎県議会議長 田中 愛国 様

長崎県議会議員 大久保 潔重

海外研修視察について下記の通り報告いたします。

記

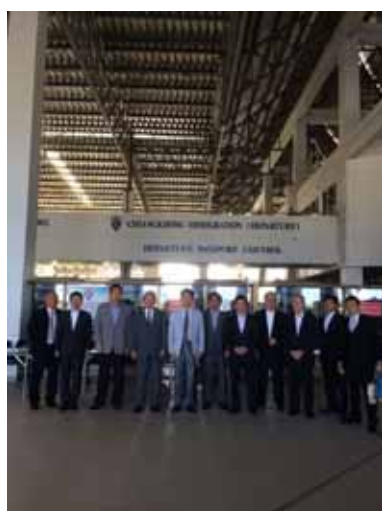
- 1、 期間 平成28年11月2日 ~ 平成28年11月6日
- 2、 視察先 タイ(チェンライ)ラオス(フェーサイ、ビエンチャン)
- 3、 視察目的 長崎ラオス友好協会を代表して、今後の両国の文化ならびに産業交流の促進のため、前駐日ラオス全権大使のケントン閣下の表敬訪問。ボケオ県およびビエンチャンでの調査視察。
- 4、 調査事項
ラオス北部ボケオ県の、県政全般ならびに温泉の源泉やゴールデントライアングル(タイ、ミャンマーとの国境)経済特区における投資環境などの調査。
首都ビエンチャンにおけるラオス国全般ならびに主にスポーツ、保育、産業分野などでの調査。
- 5、 調査結果
11月2日
まる1日移動
朝7:30 諫早市を出発し、福岡国際空港からタイ・バンコクを経由してチェンライに到着は21:00であった。チェンマイから約180kmラオス寄りのチェンライは約120万人の人口。過去2012年5月に、ラオス航空のチャー

ター機を福岡空港から直行で飛ばした事があったが、これから相互の友好交流を深めるためには、直行便は必要である事を痛感した。(2015年1月、日本ラオス航空協定署名)

11月3日

ボケオ県視察

チェンライから約100kmのチェンコンが国境。ここからメコン川にかかる第4友好橋を渡りラオスに入国する。橋ができる前はチェンコンより上流のチェンセンから船で渡っていた。ラオス・ボケオ県のチョムシー副知事以下約20名の県幹部、県議会副議長などの迎えをチェンコンで受ける。パトカー先導で10台の日本車4WDで視察のスタート。



ボケオ県内のトンフン市とムン市の温泉の源泉を視察。中国資本の広大なバナナ園とゴム園の間のオフロードを走ること2時間、やっとたどり着いた。それぞれ70と100の源泉であったが、現地の人はその活用法を知らない。両市の市長を合わせて20年近くやっている副知事からは温泉の活用も含めて、日本からの投資、長崎県との連携をお願いされた。

ラオス側の治安はいいが、この地域はタイ、ミャンマーさらには中国との国境が近いので銃を持った国境警備隊(軍隊と警察)に警護されての視察である。

中国資本のバナナ園は多量の農薬、化学肥料を使用しているため、土壌汚染などの環境面での懸念があった。有機農業に対する意識は高かった。

ゴールドトライアングルは以前、大麻や阿片などの麻薬の取引という負のイメージだったが、今では経済特区であり、投資を呼び込もうとしている。関

税をなくし、貿易や流通を活発にし、3国はビザなしで交流を深めようとしている。カジノやホテルの立地が進んでいる。



県庁所在地フエーサイの小高い丘の上にあるボケオ県庁にカンパン知事を表敬訪問し、意見交換する。カンパン知事は、ボケオ県出身のカムタイ元大統領の秘書を10年勤めていた。ボケオ県には材質の固いチーク木材やサファイヤ鉱山などがある。今後のお互いの交流を深めると同時に、支援や投資を求める要請を受けた。知事面談後、ラオス料理の夕食に招待を受けた。通訳は、大阪大学に留学経験のあるエネルギー産業省（日本でいう経済産業省）のソースパン氏であるが、若くて日本語がうまい。

当初、予定していたナムカン自然公園は、雨季最後の大雨で、道路が寸断されていて今回は、行けなかった。



11月4日

ボケオ県視察

同じく、副知事の案内でフエーサイの見学。迎賓館の近くの高台、街が一望できる場所に、台座 10m、高さ 40mの仏像を 5 年以内に建立して新たな観光名所にしたいとの事。アクセスの道路や、市街地からの階段、休憩所や土産品店なども建設予定で、完成すればいい景勝地になるだろう。



ルワンナムタ県視察

ボケオ県から約 180km 離れたローカル空港のあるルワンナムタ県に車で向かう。中央政府からの出向で、ルワンナムタ県の観光行政の責任者カムレイ氏の出迎えを受け、昼食をともにする。県庁内で意見交換後、市内を見物。日本人女性がやっているシルク布工房の見学。

ケントン氏と夕食

首都ビエンチャンに到着後、前駐日全権大使のケントン国会議員と夕食懇談。

ボケオ県選出の他 2 名の国会議員も参加。ラオスのスポーツ、医療、教育、産業などについて意見交換。2020 年の東京五輪に向けた長崎での事前キャンプの誘致や、後任の新駐日大使の紹介と長崎友好協会との今後の交流関係継続をお願いした。



11 月 5 日

ジェットロ所長と面談

休日にも関わらず、日本貿易振興機構（ジェトロ）ピエンチャン事務所の柴田哲男所長が朝から我々の宿泊するホテルにお出向き、ラオスに関するブリーフィングを受ける。経済概況、日系企業進出事例、投資環境などについて意見交換。配布された資料はかなりいい資料である。政治的に安定、自然災害が少ない、人々が温厚であるなど、利点が多い。人口もベトナムやミャンマーなどに比べ少ないので、中小企業が進出するには向いているのではないか？



ピエンチャン市内視察

NPOラオスのこども、ホアンカオ学校などで教育状況の視察。日本人教師横山先生に説明を受ける。

ラオス仏教最高の寺院・タートルアンを視察。日本の曹洞宗が主に支援している。ちょうど外壁の金箔の塗り替え工事中であった。ラオス人の仏教に対する信仰の深さを感じた。

長崎友好協会の支援事業であるラオアセアン病院の視察。長崎市民病院の建て替えに当たり、不要になる中古医療機器を提供した経緯がある。

6、 調査により得られた成果および県政への反映方策

日本からの直行便が必要である。ラオス航空日本代表がH29年夏から秋にかけて成田からの直行便を飛ばしたいと述べた。その際、燃料補給トランジットで長崎空港に寄れないか、誘致の取り組みを進めたい。

ボケオ県の温泉の活用について、県内温泉を有する例えば雲仙市などとの連携はありえないか？欧米人に人気のある不便な秘境の温泉リゾートなど開発、地熱発電などの支援の可能性を探りたい。

化学肥料や農薬などに汚染されていない広大な肥沃な土地があるので、オーガニック農業の拡大のため、栽培技術などの支援ができないか？

今後、ラオスは教育に力を入れていくというが、人材や施設等、環境整備はこれからである。我々ができうる支援としては、例えば今回ご縁のあったボケオ県の子供たちに、鉛筆やノートなどの文具の提供ができないか？

今後、経済発展とともにオートバイの数も増えるだろう。ヘルメットの生産が全然間に合っていない。ヘルメットの提供ができないか？また現地で生産工場を建設するための投資ができないか？

ゴールデントライアングルやボケオ県の森林資源、鉱物資源については今後の展開、様子を見る。

長崎県の進めるスポーツ合宿の誘致に関しては、ケントン前大使より国、ボケオ県に働きかけてもらう約束をした。帰国後、中村知事から依頼文を出してもらう。

7、 行程表 別紙のとおり

8、 まとめ

ラオスとの国交樹立 61 周年、青年海外協力隊派遣開始 51 周年を迎え、在ラオスの日系企業はこの 2 年で倍増している。政治的な安定、自然災害が少ない、温厚な国民性を考えれば当然といえる。大企業は人口の多いベトナムやミャンマーなどに進出するだろうが、中小企業はラオスがいいと思う。人件費の安さと物流コストの高さを比較して、損益分岐点を探る必要がある。

私の最初のラオス訪問は、平成 22 年 5 月、琉球大学の草の根技術協力による医療支援のお手伝いをしたのがきっかけであるが、ラオスの風土、国民の純粋で素朴な人柄、治安も良く、平和であることに惹かれ、今回で 6 回目の訪問になった。日本の ODA 事業で完成したインフラを自国の郵便切手や紙幣に印刷するなど超親日で仏教（小乗仏教）の熱心な国柄である。駐日ラオスのシートン元大使（現ドイツ大使）が平成 22 年 8 月 9 日、長崎原爆平和追悼式にラオス大使として初めて参列いただいた時に、歓迎するための受け皿として長崎ラオス友好協会を結成した。その後ケントン前大使にも長崎との友好は引き継がれているが、後任の駐日大使にも同様に引き継がれ、友好を促進していきたい。

長崎ラオス友好協会、長崎県として何が出来るかの模索である。医療支援、農業支援、商工業支援など会員と話している。京都の友好協会は、支援の見返りにラオスの象徴である象をもらった。長崎県の動物園に象はいないので、友好の証に長崎バイオパークに象をもらえる位の関係構築が必要だと思う。

ほとんど農薬や化学肥料に汚染されていない広大な土地も魅力だ。長崎県産品である、うどんやソーメンの原材料の小麦はほとんどオーストラリアなどからの輸入である。小麦の現地栽培、出荷、製造、販路（国内外に）の一貫した流れをラオス長崎で完結できないか、研究したい。

森林産業、木材も魅力である。家具の大川市は材木処理の人材育成に乗り出している。海はないが、メコン川は広大な川である。水産養殖などの支援も考えられる。

昨年の県議会一般質問でも触れたが、将来的な県内の交流人口拡大、人材育成や人材確保に貢献する事が大きな目的と考える。ベトナムやカンボジア、タイ、ミャンマー等、経済成長とともに所得が上がっていくお手伝いをする中で、留学生や技能実習生、観光客など多くのラオスの皆さんに長崎に来ていただく。そして長崎ファンを増やして、さらに沢山の人に長崎を訪れていただきたいと願うものである。帰国した人は、県内企業がラオスに進出する際の、現地の貴重な人脈として活用できるし、長崎に永住してもらえば労働力不足対策、人口減対策になるのではないかと考えている。

最後に昨年 11 月の訪問で視察した、ナムグム水力発電所のダム湖は大きくてインパクトがあった。ラオスの電力が豊富なことに納得すると同時に、日本でも降雨量の多い過疎の山岳地帯を、再生可能エネルギーの発電源として活用できないものか研究していきたい。

夕、

日 程

日付 曜日	午前 午後	渡航先国 訪問地名	使用交通 機 関	日 程 の 概 要 訪問予定先名称等	宿泊先
11/2 (水)	11:40 15:40 18:45 20:10	タイ タイ・チェンライ	タイ航空 649 便 タイ航空 2136 便 専用車	福岡空港発 スワンナプーム国際空港(タイ) 着 スワンナプーム国際空港(タイ) 発 チェンライ国際空港(タイ)着	ワン・イン・ホテル (Wiang Inn Hotel) [住所] 893 Phaholyothin Road, Muang District,57000,Chiangrai, THAILAND [TEL] +66-5371-1533
11/3 (木)	午前 午後	タイ・チェンセン ラオス・ フェーサイ	専用車	タイ出国 ラオス入国 ボーケーオ県庁訪問	ゲートウェイビラホテル (Gateway Villa Hotel) [住所] Th Saykhong, Huay Xai, Laos [TEL] +856-84-212-180
11/4 (金)	午前 16:05 17:00	ラオス・ フェーサイ ラオス・ ビエンチャン	専用車 ラオス国営 航空 602 便	フェーサイ視察 ルアンナムター空港(ラオス)発 ワットタイ国際空港(ラオス)着	ワンサナ リバーサイド ホテル (Vansana Riverside Hotel) [住所] 881 Ban Sithane neua, Sikhottabong District, 01000 Vientiane, LAO [TEL] +856-21-252-090
11/5 (土)	午前 21:55 04:45	ラオス・ ビエンチャン	専用車 大韓航空 5208 便	ビエンチャン視察 ワットタイ国際空港(ラオス)発 仁川国際空港(韓国)着	機中
11/6 (日)	08:00 09:20		大韓航空 787 便	仁川国際空港(韓国)発 福岡空港着	